

2022年第3回 IEEE Japan Council 理事会議事録（案）

日 時：2022年12月9日(金) 13:30～17:20

場 所：住友電気工業株式会社 ホール および オンライン

出席者：橋本 JC Chair、高村 JC Vice Chair、重松 JC Secretary、前原 JC Treasurer、
小川 札幌支部 Secretary/Treasurer、山田(博) 仙台支部 Chair、
佐藤(敏) 信越支部 Chair、中野 東京支部 Chair、Chaki 東京支部 YP Chair、
片山 名古屋支部 Chair、畑 関西支部 Chair、松居 関西支部 Vice Chair、
丹治 四国支部 Vice Chair、上原 広島支部 Chair、吉田 福岡支部 Secretary、
末松 COC Chair、大野 SAC Chair、桑原 AC Chair、河東 IPC Chair、
島村 HC Vice Chair、滝嶋 Past Secretary、羽瀨 Past Treasurer、
奥村 LRSC 委員、山田(剛) YP Coordinator、鈴木 EA Coordinator、
野田 WIE Coordinator、南 MGA ARC Past Chair、西原 R10 Past Director、
矢野 R10 WIE Coordinator

オブザーバ：Japan Office 百武氏、宮永 次期 JC Chair、原崎 次期 JC Vice Chair、
樋口 次期 JC Treasurer、植村 次期 東京支部 SAC Chair、
Kawamoto 次期 東京支部 WIE Chair、佐藤(淳) 次期 名古屋支部 Chair、
梶川 次期 関西支部 Chair、井上(哲) 次期 関西支部 Vice Chair、
小澤 次期 SAC Chair、浅井 次期 AC Chair、塩見 次期 YP Coordinator、
津田 次期 LM Coordinator、大越 次期 EA Coordinator、
井上(美) 次期 WIE Coordinator（順不同）

事務局、幹事会社事務担当

議題：

0. IEEE President K. J. Ray Liu 氏 来日レポート（報告）
1. 前回理事会議事録の確認（審議） 資料（1）
2. 2023-2024 年理事会・委員会メンバー（審議） 資料（2）
3. 2022年 Japan Council 活動報告 資料（3）
4. 2022年 Japan Council 決算予想 資料（4）
質疑応答（議題1～4）
5. 常設委員会 2022年活動報告、2023年活動計画案および予算案 資料（5）
 - 5-1 Chapter Operations Committee 資料（5-1）
 - 5-2 Student Activities Committee 資料（5-2）
 - 5-3 Awards Committee 資料（5-3）
 - 5-4 Industry Promotion Committee 資料（5-4）質疑応答（議題5）
6. Ad-Hoc 委員会 2022年活動報告、2023年活動計画案および予算案 資料（6）

6-1 Long Range Strategy Committee	資料 (6-1)
6-2 History Committee	資料 (6-2)
質疑応答 (議題 6)	
7. Coordinator 2022 年活動報告、2023 年活動計画案および予算案	資料 (7)
7-1 Membership Development	資料 (7-1)
7-2 Young Professionals	資料 (7-2)
7-3 Life Members	資料 (7-3)
7-4 Educational Activities	資料 (7-4)
7-5 Women in Engineering	資料 (7-5)
質疑応答 (議題 7)	
8. 各支部 2023 年活動計画および前回理事会以降の活動報告	資料 (8)
8-1 札幌支部	資料 (8-1)
8-2 仙台支部	資料 (8-2)
8-3 信越支部	資料 (8-3)
8-4 東京支部	資料 (8-4)
質疑応答 (議題 8-1~8-4)	
8-5 名古屋支部	資料 (8-5)
8-6 関西支部	資料 (8-6)
8-7 四国支部	資料 (8-7)
8-8 広島支部	資料 (8-8)
8-9 福岡支部	資料 (8-9)
質疑応答 (議題 8-5~8-9)	
9. 2023 年 Japan Council 活動計画 (審議)	資料 (9)
10. 2023 年 Japan Council 予算 (審議)	資料 (10)
11. その他	資料 (11)
11-1 Awards and Recognition Committee 2023 年活動計画 および 2022 年活動報告	資料 (11-1)
11-2 協賛国際学会への IEEE ブース設置結果	資料 (11-2)
11-3 SNS の運用開始について	資料 (11-3)
11-4 周年記念イベントについて	資料 (11-4)
11-5 事務局労務関係業務のシステム化について	資料 (11-5)
11-6 Japan Office 報告	資料 (11-6)
11-7 次期理事会への引継事項 (案)	資料 (11-7)
質疑応答 (議題 11)	
[参考] メール審議記録	
[参考] Region 10 からのメール連絡一覧	

議事進行に関し、「6-1 Long Range Strategy Committee」については議題 7 の後に実施し、「7-1 Membership Development」については議題 11 の後に実施したが、議事録においては当初議題順の通りに記載した。

上記を除き、議事は議題に記載の順で進められたが、議事録においては読みやすさの観点で各報告に続き対応する質疑応答を記載した。

議事：

0. JC Chair 挨拶、IEEE President K. J. Ray Liu 氏 来日レポート（報告）

報告： JC Chair

IEEE President が来日し、JC 理事との会議や講演会等を行った。10/24 に SAC、IPC、EA 等の JC の各活動について IEEE President へ説明し、貴重なコメントを頂いた。日本はグローバル化が遅れている、30 年前から変わらない等と厳しい言葉も頂いた。11/1 には Japan Office のミッションや JC との連携強化について議論した。JC 事務局への訪問、東京大学研究科長への表敬訪問、東京支部 TPC 主催での IEEE President 講演会と意見交換会を行った。東京支部 Chair と東京支部 TPC のリーダーシップに感謝する。

1. 前回理事会議事録の確認（審議→承認） 資料（1）

報告： JC Secretary

前回理事会議事録について、異議なく承認された。

2. 2023-2024 年理事会・委員会メンバー（審議→承認） 資料（2）

報告： JC Secretary

次期役員は宮永氏が JC Chair、原崎氏が JC Vice Chair、奥村氏が JC Secretary、樋口氏が JC Treasurer となる。Chair が決まっていない支部もあるが、想定される来期理事会構成にて審議する。

議題 2 について、異議なく承認された。

3. 2022 年 Japan Council 活動報告 資料（3）

報告： JC Secretary

本年の JC 活動報告について、各理事から報告を受けたものを JC Secretary が纏めた。

4. 2022 年 Japan Council 決算予想 資料（4）

報告： JC Treasurer

11 月末時点の中間会計報告と決算予想の報告。支出は第 2 回 JC 理事会で修正予算を立て、各 OU から 12 月末時点の支出予想の提出があった。会計処理が残っているものがあるため、引き続き協力をお願いしたい。

5. 常設委員会 2022 年活動報告、2023 年活動計画案および予算案 資料 (5)

5-1 Chapter Operations Committee

資料 (5-1)

報告 : COC Chair

第 1 回 COC Meeting を 6/8 に行い、第 2 回を 10/27 に行った。各 Chapter との意見交流を図っている。支援費は 10/26 時点で 45 件。年末にかけて駆け込み的になるため、満額使い切れると見込んでいるが、オーバーした場合は相談する。会計監査の指摘を鑑みて、今年に関しても来年 1/31 までの支払い処理完了を依頼している。以降は受け付けないと COC Meeting では周知している。Kintone システムへの移行は順調に進み、大きな問題はない。2023 年活動計画は、COC Meeting をハイブリッド形式で 2 回開催予定。Section 移行の準備を進め、2024 年に行うスケジュール。

質疑応答

Past Secretary : Chapter 支援費の東京 Section への移管に向けて計画はあるのか。

COC Chair : 東京支部 COC Chair が、Chapter 支援選考のプロセスと Kintone システムを見て問題無いことを確認した。まず COC 内で引継ぎし、役員が変わり次第東京支部と引継ぎを行う。2024 年の初めから移行をする。Award 申請の登録は引き続き COC に残るが、支援費は 1 月から切り替えても構わない。

5-2 Student Activities Committee

資料 (5-2)

報告 : SAC Chair

R10 SYWL Congress 2022 に SAC から学生を 2 名派遣。YP から 1 名、仙台支部から 1 名の合計 4 人で参加した。マンガプロットコンテストの応募は 9 件。うち 3 件の漫画化が決定。完成後、内閣府を通して広報し、他財団の賞にも応募予定。徳島の SYWL に 6 名派遣し、今回は実行委員として関わってもらった。東北大学の学生が実行委員長を務めた。SBLTW を沖縄で約 3 年ぶりに開催。46 名の学生が参加し、各 SB から 2 名までの旅費を支援。同会場で Student Branch Counselor & SAC Meeting を行った。札幌支部が学生会員の初年度会費を補助するシステムがあり、学生会員増加に繋がったとのこと。今後各支部で検討してはと意見があった。東京会場、名古屋会場とオンラインで Student Branch Research Presentation Encouragement Workshop を開催した。学生の活性化と、カウンセラーのサポートが重要のため、来年は Student Activities Award と Outstanding Student Branch Counselor Award を創設する。

質疑応答

Past Secretary : R10 SYWL Congress について、SAC と YP 各々の資料にレポートが付いている。お互いリファーしても良いと思った。

SAC Chair :当初は YP と纏めて1つのレポートを作成予定だったが、学生個別でレポートを作成していたので、SAC として提出した。

Past Secretary :海外のイベントに参加するなら、同じチームなので連携すれば良いと議論があった。今回も、初めて顔合せする人が多く、当人に任せても連携方法はわからない。レポートの書き方も含め、現地での連携方法を考慮すると良いのでは。

SAC Chair :私(SAC Chair)が中心となるべきだったが、現地に行けなかった。1つの成果として、SB としては珍しく、2年生で興味を持って行ってもらった。

YP Coordinator :イベントごとに、各々が所感を交えてレポートとして書いている。参加して良かったという印象を汲み取ることができる。各章ごとに名前も記載している。

MGA ARC Past Chair :マンガプロジェクトについて、費用を費やして漫画を作ることに賛成していない。本部等の費用をもらい、積極的に世界展開する方向があったが、状況を知りたい。

JC Chair :現在、WIE International Chair と、NIC(New Initiative Committee)に提出中。多額の予算かつ数年間の規模のプランで、現在審査中の状況。

R10 WIE Chair :Award を来年新設予定とのこと。JC ARC と連携するのではなく、SAC 単独で行うのか。

SAC Chair :SAC 単独で行う。

JC Secretary :それが良いのかどうか。

JC Chair :例えば Call for Award の申請は SAC 中心が良いが、ARC とも相談し、発表は纏めて行う等の仕組みを次年度検討すれば良い。R10 と同じ構造になる。各 Committee での Award 審査を取り纏めるのを ARC Chair が担当すれば良い。

MGA ARC Past Chair :まず Award を出すのが大事。各 Committee や Affinity Group で Award 活動をして、JC ARC として纏めるべきであれば、R10 と同様に取り纏めるのを考えても良い。今は様子見している。

5-3 Awards Committee

資料 (5-3)

報告 : AC Chair

支部委員と本部委員アップデートを実施。JC AC 全体会合を機械振興会館と WebEx の併用で開催した。Medal、Recognition、Technical Field Awards の各受賞数の推移および受賞状況のアップデートを実施。統計データから、受賞者数は若干増加の状態であることが判明。秋頃に JC AC 全体会合を開催予定。来期は Medal、Recognition、Technical Field Awards も支部と連携し、推薦を促進する。今年の JC AC 全体会合では、客観指標とグローバル向けアピールの重要性が議論された。受賞に値する業績を持つ人でも、

IEEE 表彰の価値を理解頂けず、辞退されるケースもある。企業が IEEE 表彰の価値を認識することが必要。2023 年の受賞者は合計 5 件。

5-4 Industry Promotion Committee

資料 (5-4)

報告 : IPC Chair

第 3 回 IPC 委員会を開催した。四国で MAW2022 と SYWL+I が開催され、支援をした。SYWL に Industry をプラスしたのは今回が初めて。JC Secretary の「企業におけるキャリア開発」講演や企業ブースの幹事会社パンフレット展示等を行った。MAW 第 2 ラウンドについて議論を行った。2015 年に開始した MAW が 2023 年で 9 支部を一巡する。各支部の考えを聞くためにアンケートを取った。IPC の意義を離れたとしても、各支部にとって独自の位置付けを持つ重要イベントとして認識され、成果を上げた。名前や方法は見直したとしても、継続すべきだと感じた。引き続き IPC と JC で連携して検討する。IPC Secretary と連携し、「社会人博士」をテーマに講演会を開催した。IEEE President との交流に参加し、Industry との関係は重要でありながら難しい。企業に留まることなく、IEEE をプロフェッショナルホームとして使っていくのが重要だと意見があった。IPC 初期の資料を MGA ARC Past Chair が纏めており、今年 IPC のホームページも作成した。役員決定が難しいため、幹事会社と関連付けた決定方法で進めて行く。来年度委員会の運営は、企業の委員を中心とした活動をしていきたい。

質疑応答

LM Coordinator : 今年のイベントは非常に良かった。来期は違う形で開催すると言っていた。どのような形の新規軸を出すのか。

次期 IPC Chair : SYWL+I 等の活動内容を変える気は無い。幹事会社企業が、自主的に活動や意見交換ができるよう、会議の形態を変える。外向きの活動は変わらない。

LM Coordinator : 理解した。今年は立派な活動をしたと思う。

6. Ad-Hoc 委員会 2022 年活動報告、2023 年活動計画案および予算案 資料 (6)

6-1 Long Range Strategy Committee

資料 (6-1)

報告 : LRSC Chair

11/11 に第 3 回 LRSC 会合を開催。内容は中間会計報告、Fellow 昇格者の増加に向けて、協賛国際学会への IEEE ブース設置結果、SNS 運用開始、周年記念イベント、今期の活動のまとめ等を議論した。10/31 に JC 主催 第 1 回 Fellow 申請者向け Webinar を開催。アンケートは少ししか取れなかったが、「大変満足」が 73.3 %、「満足」が 26.7% と満足度が高かった。第 2 回は 12/22 に開催予定。2021 年にも Webinar を行い、成果は不明だが 2023 年は日本の Fellow が 1 名増えた。Industry との関係促進、MD 活動サポート、SYWL の活性化支援、幹事会社制度に関する議論、周年記念イベント、Japan Office

との協調を継続的に検討する。それに加えて、電子情報通信学会や情報処理学会等の他組織と連携を強化する。Fellow Webinar も継続的に検討。

6-2 History Committee

資料 (6-2)

報告： HC Vice Chair

2021年と2022年合わせて3件のマイルストーンが顕彰された。QRコードは9/26に贈呈式を行った。現在申請中の案件が13件、準備中が7件。年1回開催の国内HC委員会は函館で開催された。来年の活動計画について、委員会の活動としては、メールベースが活動中心。年1回のミーティングを予定しており、仙台支部で実施したい。

7. Coordinator 2022年活動報告、2023年活動計画案および予算案 資料 (7)

7-1 Membership Development

資料 (7-1)

報告： JC Secretary(MD Coordinator 代理)

今年はオンライン会議を2回実施。来年の活動は主にシニアメダル授与を予定。海外からも評価が高い。個数の申請は未だ無く、効率的な授与方法について情報交換を行った。Web ページ更新等を強化し、リニューのメールを送信した。

7-2 Young Professionals

資料 (7-2)

報告： YP Coordinator

予算に対する執行状況は、SYWL 旅費が少し上回ったが、ほぼ計画通りに執行した。組織図を見ると、名古屋支部以外アカデミック出身であった。企業からも YP 活動に参加できるようなメンバーを調整できれば良い。SYWL+I を MAW 開催に合わせて実施した。オンライン9名、現地参加45名の合計54名が参加し、実行委員長として成功したと感じる。+Industry という新たな企画に加え、共同実行委員長としてSBから人を出し、学生のリーダーシップを醸成する機会を設けた。実行委員長を務めた東北大学の学生は、初参加にも関わらず内容を深く理解して活動し、各方面の問い合わせに真摯に対応しており感服した。来年も取り入れたい。JC Secretary やシンガポール Officer 等が講演を行い、英語で会を進める部分もあった。広島四国福岡ジョイント YP 設立記念式典を開催し、ノーベル賞受賞者の天野氏に講演頂き好評だった。11月時点での広島四国福岡の YP 会員 500 名に対し、講演には 59 名の多くの参加を頂いた。IoT WF を運営し、R10 SYWL Workshop 2022 に 2 名を派遣した。SBLTW に YP として共同でポスターセッションに協力した。2023 年計画は、SYWL に積極的なサポートを行い、新しい取り組みとして YP 単独イベントの YP Carrier Lab と YP Study Lab を企画。学生から社会人への橋渡しとなり、技術的にも最新情報を展開しやすいと思う。

質疑応答

EA Coordinator：一部未定および未回答の YP 次期人事は連絡が取れないのか。

YP Coordinator：その後連絡が来た。東京支部 YP は未だ検討できていないとのこと。

JC Secretary：東京支部 Secretary として補足する。一度選定したが、選定方法が適切でなかったため、改めて選定をする状況。

7-3 Life Members

資料 (7-3)

報告：LM Coordinator

LM Coordinator はこれまで LMAG 設立を支援してきた。今期は福岡、四国、広島候補地域で動いたが、成功していない。各 LMAG と各支部 LM へ、LMAG のイベント情報を流した。当初は LM Coordinator 経由で行ったが、各 LMAG の主催者が事務局に依頼した結果、オンライン開催の講演会や見学会に他の LMAG からの参加が多くなった。LMAG 関西が設立 10 周年。久々に対面形式で式典を行った。次の 10 年記念は LMAG 名古屋となる。徳島の MAW と SYWL+I は、各 LMAG あるいは支部 LM から協力者を募り、3 人ほど参加頂いた。韓国の R10 SYWL Congress は韓国の IEEE 各支部や LMAG ソウルと交流を深め、私(LM Coordinator)はスペース・トラベルをテーマに講演した。R10 あるいは東北アジア地区での共同イベント開催を LMAG 執行部と検討し、実施内容と体制を詰めて実行に移すことになった。JC 内 LMAG の活動状況としては、講演会の数は東京が 8 件、関西が 2 件、名古屋 2 件、仙台 3 件、札幌 3 件。LMAG 独自のオンライン開催の Congress、見学会、サロン、英語弁論大会なども行っており、各 LMAG は工夫している。LMAG によって活動内容や回数が異なるが、規模やリソースの関係がある。来期は平準化する目的で、LMAG から別の LMAG へのイベントに参加することを進めてほしい。MAW と SYWL に適宜参加および協力をする。R10 で LMAG 関連のカンファレンスやワークショップが 4 件程予定されており、LM Coordinator あるいは LMAG 執行部が協力および参加することが重要。

7-4 Educational Activities

資料 (7-4)

報告：EA Coordinator

次期 EA Coordinator は大越氏となる。2008 年に東京支部 YP を初めて設立した方。7 月から 11 月まで、Engineer Spotlight を 3 回実施。ITSS との共同企画で Chapter 連携が出来ている。第 29 回は広島四国福岡 YP のキックオフイベントと共同企画した。EA ホームページの作成は大まかな部分は完了。MAW と SYWL にブースを出展した。その際、手を尽くして参加を募ったが、応募がなかった。キャリアに関する出張授業である Career Navigator を中学校で実施した。各支部の活動状況は、各支部にて独自の展開をしてもらっている。今後も各支部での議論や方針に基づき運営いただく予定。年間予算状況はほぼ申請通りに執行している。来年度計画は、どの支部でも使えるグッズ作成と JC ブース出展により、昨年度より増額での申請となっている。12/6 に社会人博士

をテーマにした **Engineer Spotlight** を開催。JC IPC 委員会の幹事会社の広報もあり、企業からの参加が多かった。社会人と博士号取得の研究室のマッチング支援から **Senior Member** と **Fellow** 昇格の支援までをシームレスに行うことは一定の需要があるように感じている。

質疑応答

SAC Chair : Student でプレゼンテーションワークショップを開催し、東京支部 **SAC Secretary** に依頼して高専を東京会場とした。東京支部 **SAC Secretary** の研究室をはじめ、13 人の高専生が参加した。高専生が **SAC** のイベントに参加したのは初。EA としても貴重な情報だと思うので、高専生のアンケート結果を参考にして欲しい。

EA Coordinator : アンケート結果は、既に他支部 **EA Chair** にも共有した。

MGA ARC Past Chair : Engineer Spotlight の活動は多岐に渡り良いと思うが、**Engineer Spotlight** という名前で継続するのは違和感がある。実態に即した名前にした方が良い。

EA Coordinator : Engineer 個人にスポットを当てている部分はある。回数が積まれたシリーズ物なので、知名度があり親しまれていると感じるが、引き続き検討する。名前が合っていないという意見が他にもあれば知らせて欲しい。

MGA ARC Past Chair : 次期 **EA Coordinator** にも確認して欲しい。

7—5 Women in Engineering

資料 (7—5)

報告 : **WIE Coordinator**

WIE Chair 会議、**SYWL** の準備等を行った。マンガプロットコンテストでは **WIE** 賞を設け、授与。図書券を **Coordinator** 予算にて贈った。**SYWL+I** は実行委員として事前準備し、当日現地参加した。グループディスカッションのファシリテーターを担当し、現地でマンガプロットコンテストの表彰式を行った。東京信越 **WIE** の会員 3 名に参加旅費を補助した。11/12 の **WIE2022** は東京信越 **WIE** が主催し、国内全支部の **WIE** が共催した。今年までは全支部 **WIE** に関わるので、開催費用は **WIE Coordinator** が負担をした。参加者はオンライン参加 51 名、現地参加 26 名。関西 **WIE** 2 名に参加旅費を補助した。全支部委員の活動がわかる **SBLTW** 用のポスターを作成。全体予算は、マンガプロットコンテストの賞金と旅費、**WIE 2022** の予算となり、予算通りの執行。**2023** 年の計画は、会員増と連携支援を目標にするだけでなく、女子学生と女性若手研究者の支援を行いたい。**SYWL** と **WIE 2022** の旅費補助が様々な連携や勉強に活かされており、旅費支援強化を考えている。**WIE 20XX** シリーズは全支部委員に関わり、かつては **JC WIE** で行っていた。東京信越 **WIE** から、「**JC** の会員は東京信越 **WIE** の会員が多く、東京信越 **WIE** のイベントとして位置付けたい。」と希望があった。他 **WIE** も、各支部の特色のあるイベントを立ち上げているので、**WIE 20XX** は東京信越 **WIE** のイベントとし、**Coordinator** から予算は出さない。来年予算は旅費支援とマンガプロットコンテストの

WIE 賞のみ。

質疑応答

Past Secretary : WIE 20XX について、イベント自体の本質は変わるのか。WIE が各支部になった際、このシリーズは日本全体のイベントとして位置づけ、JC から予算付けする流れで来ていた。位置付けが変わるのであれば、それに合わせて費用立てや運営体制を決めていくと良い。

WIE Coordinator : 日本全国に関わるのが変わるのではなく、持ち回りで行うと規模の小さい支部には負担になる。各支部で良いイベントが立ち上がっているため、相互に人を派遣し、日本全国の活動をアクティブにするのは可能である。位置付けは少し変わるが、東京信越は会員も多くノウハウもあるため、規模を継続できると思う。

Past Secretary : 日本全国のイベントであるのが変わらないのであれば、間違えたメッセージにならないよう、他支部の WIE に伝えて参加頂けるようアピールすれば良い。東京信越 WIE でも、関係支部と合意を得て実施するのではないか。

WIE Coordinator : 共催として全体に関わるのは変わらず、Coordinator 予算として多くの方に参加者もしくは協力者として出すことは続ける。昔と比べ、費用を多く使う必要は無く、東京信越 WIE からも了解を得ている。

MGA ARC Past Chair : WIE Coordinator の意見に賛成する。関西 WIE はローカル性を活かしていた。費用が厳しいのなら、Section 支援費等を使って JC 理事会の承認を得てサポートできれば良い。独立するのは好ましい方向。

8. 各支部 2023 年活動計画および前回理事会以降の活動報告 資料 (8)

8-1 札幌支部 資料 (8-1)

報告 : 札幌支部 Secretary/Treasurer

電気・情報関係学会北海道支部連合大会に共催し、主催事業の IEEE 札幌支部若手研究者年間優秀論文賞の選定を行い、IEEE 札幌支部 Student Paper Contest の表彰を進めている。会員数増強の施策は、新入会の Student Member に対する学会活動支援、学会発表支援を実施。講演会は 5 件開催。ICEC2022 に協賛し、R10 Meeting と JC 理事会へ参加、SB 合同学生交流会を実施した。収支としてはプラスになるが、12 月に学生補助が多く出たため黒字分は少し減る見込みである。2023 年事業計画は理事会と総会の実施、北海道支部連合大会への共催、札幌支部若手研究者年間優秀論文賞の主催等を行う。支出は本年ベースを予定している。

8-2 仙台支部 資料 (8-2)

報告 : 仙台支部 Chair

役員会を開催予定。その際、寶迫様から講演を頂く。8 月末に電気関係学会東北支部

連合大会が開催され、IEEE の Session として英語プレゼンテーションセミナーを開催し 28 名が参加した。同大会で Student Session を開催し、17 件の発表があり、優秀な発表に対して表彰式を行う予定。LMAG,WIE,YP の合同講演会を 11/19 に開催した。各グループから代表推薦講演として 3 名に講演を頂き、42 名が参加した。8 月の連合大会にて「女性研究者たちが伝える研究の魅力」と題して企画 Session を行い、41 名が参加した。LMAG 関係はイブニングサロンを開催予定。仙台支部からは Fellow 昇格者が 2 名出た。来年早々に、総会で記念講演会を開催予定。R10 Best Membership Retention Medium Section Award を受賞した。Senior Member 昇格者は 1 名で、IEEE Japan Medal を贈呈予定。来年は、設立 25 周年事業として記念シンポジウムを開催し、25 年間の活動レポートを作成する。連合大会では記念講演会を予定。役員任期満了に伴う次期役員(2024 年-2025 年)の改選を実施する。

8-3 信越支部

資料 (8-3)

報告：信越支部 Chair

9 月に電子情報通信学会信越支部大会が開催され、役員会を行った。9/24 には Award 関係の審査会を開催し、11/26 の電気学会東京支部新潟支所研究発表会大会でも役員会を開催した。9/24 の支部大会では IEEE Oral Session を開催。そのうち 1 件を表彰した。11/26 の大会でもメダル授与式を行い、Senior Member 昇格者 2 名に招待講演等を依頼予定。Shin-etsu Section Student Branch Session は昨年から単独開催となり、今年 12/19 に開催する。13-14 件の発表がある見込みで、1-2 件を表彰する。MAG-33 Shin-etsu Chapter の活動は、電気学会東海支部若手セミナーに共催した。SB は長野県および新潟県内の学生の中で定期的にオンライン会議を行っている。来年の活動は MAW が信越支部担当となるため役員会で議論中。現時点では航空宇宙関連の産業界との接点を探るテーマで、信州大学の航空宇宙システム研究拠点にて毎年開催しているシンポジウムを MAW 合同の形式にする。仙台支部との合同になる見込み。合同だと事務局も立てることができ、運営もスムーズになる。来年の秋頃開催したい。

質疑応答

JC Secretary : MAW は何曜日に開催予定なのか。

信越支部 Chair : 11 月土曜日の予定。

JC Secretary : 前後に SYWL も併せて開催される。土日開催だと企業に勤める人が出席しづらくなる。

信越支部 Chair : 金曜日と土曜日開催の形式になると思う。

JC Secretary : 詳しい内容が分かれば教えて欲しい。

8-4 東京支部

資料 (8-4)

報告：東京支部 Chair

9/6 と 12/1 に理事会を開催。特に 12/1 の理事会では新年度の体制が固まった。2023 年の Fellow 昇格者は 9 名となり、JC 全体でも上向きである。講演会は複数回開催。マイルストーンは贈呈式には至っていないが、様々な案件を進行中。SAC 関係、Affinity Group 関係は多くの活動をしており、支部の方々に感謝する。東京支部 LMAG の見学会が好評で、今後 LMAG 活動の重要な部分となる。Tokyo Bulletin も多数発行されている。来年の活動計画は、基本的に今年と同様だが、Chair が変わるため、プラスアルファの活動があると思う。JC から強化したい内容のインプットがあれば、対応する。

質疑応答

東京支部 Chair：YP Chair が未決定との指摘があった。

JC Secretary：現在、eNotice で再公募している。年内で依頼しており、正しい選定の後、3 月理事会で報告頂くことで了解している。

EA Coordinator：東京支部は YP と EA の Chair が同じであり、YP の活動=EA の活動だと感じる。WIE や LMAG が共催として入っているが、主催が常に YP と EA なのは気がかり。Chair の兼任は大変なのかもしれないが、上手に運営して欲しい。

東京支部 Chair：その問題自体に東京支部として気が付いていない。次期に懸案・引継ぎ事項として加え、対応を考えて頂こうと思う。

JC Secretary：YP Chair を選定する過程において、兼任が大変なのであれば、別の方を立てるサジェスションをする。

東京支部 Chair：bylaws を変更する必要があるのか。

EA Coordinator：兼任とした背景は理事会の理事数に起因している。これ以上増やせないところに、EA が新設され、Educational の要素が強い YP に兼任して頂く流れで決まった。SIGHT のように、オブザーバのポジションに入れる等の方法はあると思う。

JC Secretary：EA Coordinator の意見を含めて、検討する。

8-5 名古屋支部

資料 (8-5)

報告：名古屋支部 Chair

東海支部と北陸支部連合大会で、学生会員募集広告を掲載した。Senior Member 昇格者にメダルを授与した。WIE Chair が中心となり、東海支部連合大会で名古屋支部のセッションを設けた。IEEE 福井大学学生支部講演会を実施。学生支部が企画し、先生に講演頂くことで、学生を聴講させようとする面白い方法だった。9/26 に QR コードのマイルストーン贈呈式を開催。記念講演会は EA 活動として配信されている。SAC は東京支部と名古屋支部の共催でワークショップが開催され、賞を頂いた。予算は順調に執行。引継ぎ内容は従来通りだが、SB に力を入れている。名工大と豊橋技術科学大学の設立支援は様々な活動を行っており、期待している。学会によっては北陸地区と東海地区の 2

つは別支部になり得るため、学術奨励賞と学生奨励賞の受賞方式を分けるか等検討中。北陸は、学科からの推薦を頂いている優秀学生賞が少なく、総会で認められ次第、規定を大きく変える。IEEE への意識が低い大学からも IEEE の賞を出して頂くことで宣伝したい。

8-6 関西支部

資料 (8-6)

報告：関西支部 Chair

MAW、SYWL、SBLTW への会員派遣を行った。第 2 回 EA イベントは「英語で学ぶ先端技術」をテーマに 9/3 大阪大学にてハイブリッド形式で実施。IEEE Kansai WIE シンポジウム 2022 を 10/8 に京都でハイブリッド開催した。IEEE TOWERS in Kansai を 10/9 に開催。東京支部開催の TOWERS のリレー企画として、関西支部で初めて実施。第 4 回博士課程のキャリアについて語る会を大阪工業大学でハイブリッド開催した。今年の新たな試みは第 1 回 IEEE 関西支部 Fellow Club(創設記念)。開会挨拶を HC Chair が行い、村田氏がクラブの設立および手続きに関する講演を行った。Fellow に昇格した田畑氏にも話をして頂いた。LMAG 関西の 10 周年イベントは、11/12 に中央電気倶楽部で開催。IEEE 関西支部 SB 研究交流会を開催した。2023 年の活動計画は、関西支部創立 25 周年に当たり、これを祝うとともに 25 年間に渡る貢献者への感謝を表し周年記念イベントを予定。

質疑応答

LRSC Chair : Fellow Club の写真を拝見した。多くの参加者がいた。

関西支部 Chair : Fellow と Senior Member とともに半々だった。

関西支部 Vice Chair : 参加者は合計で 20 人弱だったと思う。

8-7 四国支部

資料 (8-7)

報告：四国支部 Vice Chair

電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会と併催で、9/24 に総会をハイブリッド開催し、シニアメダルの授与を行った。参加者は 343 名。MAW2022 を徳島大学で開催。多くの方に参加頂き、オンライン参加者含めて 72 名となった。イベント内容は企業、香川大学および徳島大学から講演を頂いた。懇親会を久々に開催した。翌日 SYWL+I を開催し、広島・四国・福岡の YP 設立記念講演に参加した。次年度計画は例年通りだが、コロナウイルスの影響で予算執行出来なかった講演会や英語ブラッシュアップ講座などを実施したい。

8-8 広島支部

資料 (8-8)

報告：広島支部 Chair

主催講演会を例年より多く開催した。11 月末には通信学会と共同主催で講演会を実施した。共催は YP 設立記念式典と講演会を行った。後援は他学会へ実施した。支部事業として、第 24 回学生シンポジウムを開催し、参加登録 185 名と成功裏に終えた。8 大学 33 名の学生で実行委員会を構成し、企画から運営までを担当。今年のスローガンは「Engineering for Peace」。Technical プレゼンテーションが 68 件あり、研究室展示、企業展示等も行った。各種表彰は学生のモチベーション向上を狙っている。ジョイント YP の設立を支援し、無事に設立できた。学生シンポジウムでは WIE 賞を贈呈した。Senior Member 昇格者は 3 名、Fellow はノミネーション手続き中である。会員数増強のための Student 会員支援制度も継続して進める。会計は計画通りの見込み。Affinity Group の活動報告に時間を費やすような議題構成を考えている。学生シンポジウムは、前回理事会で参加の幅を広げてはと意見を頂き、まずジョイント YP、WIE から広げていきたい。25 周年記念イベントは支部予算で行うため、繰越金は減る見込み。

質疑応答

R10 Past Director : HISS が活発である。世界初との記載は大丈夫なのか。

広島支部 Chair : 代々そのように聞いている。

R10 Past Director : アメリカやインド等で開催している可能性があり、心配している。

JC Secretary : HISS は何年からスタートしたのか。

広島支部 Chair : 24 年前の支部設立から行っている。

8-9 福岡支部

資料 (8-9)

報告 : 福岡支部 Secretary

学生をエンカレッジする目的で表彰を行っている。8 月に応募要項を公開し、応募は 27 名。2023 年第 1 回支部理事会にて表彰者を審議・決定する。主催、共催、協賛合わせて合計 10 件の講演会を実施した。YP 設立記念式典を開催した。2023 年の活動計画は、1 月に第 1 回理事会、6 月に第 2 回理事会を実施する。来年の役員は、最終候補は決定し、1 月の役員会にて正式決定する。例年通り、講演会、研究会、国際会議等を共催等含めて開催する。福岡支部の周年記念イベントは、2023 年開催か 2024 年 1 月～3 月開催か未決定だが、次期役員と相談しながら早めに開催したい。

9. 2023 年 Japan Council 活動計画 (審議→承認)

資料 (9)

報告 : JC Secretary

各理事が回答した内容を JC Secretary にて纏めた。

質疑応答

JC Secretary : 2023 年第 2 回 JC 理事会は 7/21 に名古屋支部にて開催予定。名古屋支部

Chair から快諾を得ている。

Japan Office : 2023 年は Section Congress が 8/11-13 にオタワで開催される。Section の皆様に参加頂くと思う。プログラム等があれば手伝う。

議題 9 について、異議なく承認された。

10. 2023 年 Japan Council 予算 (審議→承認)

資料 (10)

報告 : JC Treasurer

2023 年予算は決算予想と同様の形を見込んでいる。円安の影響で、1 ドル 135 円で計算している。金融系シンクタンクの予測を参考にし、140 円の平均値からリスクを考慮し 5 円をマイナスし、135 円で予算案を作成した。各 OU から来年度計画の提出があり、反映した。2022 年決算予測に準じて各 OU が予算を計画している。Section 支援費は 2023 年も申請があり、申請額は実施金額と JC への補助の比率に対して適正である。

質疑応答

JC Secretary : 1 ドル 135 円は各支部共通で、同じ指標で予算立てすれば良いのか。

JC Treasurer : これまで、全国でレートを統一したことはない。LRSC をベースにレートの標準値を決めている。活用してもらっても良い。

Past Secretary : Section と Council の間でお金のやり取りが発生するため、(注:両者間の支出入金額 (円) に不一致が生じないように)情報共有することが重要。

JC Treasurer : 可能であれば、このレートで会計を策定して欲しい。

Past Treasurer : 決算は為替レートで行われる。予算立ての時のみ、135 円で立てている。予算立ての際に統一するかどうかを考えてもらう。

議題 10 について、異議なく承認された。

11. その他

資料 (11)

11-1 Awards and Recognition Committee 2023 年活動計画 および 2022 年活動報告

資料 (11-1)

報告 : MGA ARC Past Chair

2022 年の活動は eNotice で既に連絡済。今年 3 月に承認され、ノミネーションおよびセレクションを進めたが、ノミネーションは 1 件だった。結果として、その 1 件は受賞者として選定することができなかった。2023 年は必要な修正を行い、活動を継続する。来年 3 月の JC 理事会での承認に向けて検討を進め、今年の JC 理事会メンバーからコメントを頂き、今後に反映したい。2023 年 1 月からメンバーが交代するので、ゼロベースになるが、2023 年の理事会メンバーで審議したい。来年 3 月の第 1 回 JC

理事会で承認頂ければ、Call for Nomination を出して進めたい。

質疑応答

Past Secretary : 認知度はどうすれば上がるのか。来年は理事会も新体制に移行するため立ち上がりに時間が掛かる。第 1 回理事会前に議論および検討する仕組みを立ち上げるべき。

MGAARC Past Chair : この Award は日本全体に向けての貢献。理事会メンバーがノミネーションで動かなければ、無いと思う。一般メンバーはおそらく様子見しており、ノミネーションを依頼するのは時期が早い。日本の Section 活動 30 周年に向けて立ち上げるのが良いと感じる。理事会メンバーがこの Award をどう捉えるか。そこから活動に参画して欲しい。まずは理事会の中でノミネーションをお願いしたい。

11-2 協賛国際学会への IEEE ブース設置結果

資料 (11-2)

報告 : **JC Secretary**

協賛する国際学会に対し、IEEE ブース設置を依頼した。Japan Office の協力も得て、合計 6 件の国際学会にて IEEE の活動紹介、Senior Member と Fellow 申請の勧誘等を実施。配布物を準備し来訪者に説明した。MD と Chapter はブースに立っていないが、開催場所の支部 MD から資料を提供頂き配布した。Chapter からは配布物の要請を受けた。当日、Senior Member の申請希望等を複数受けた。通常はレジストレーションの一角に設けたが、展示スペースに設けた場合、ブース自体に来訪されなかった。来年も開催する場合、早めにアナウンスし、支部 MD および Chapter は直接関与して欲しい。

質疑応答

名古屋支部 Chair : 良い企画だと思う。ブース設置はこちらから声を掛けているのか。

JC Secretary : こちらから声を掛けている。

名古屋支部 Chair : 例えば、名古屋支部で国際会議が開かれる際、支部宛に連絡が来る。それと同様に JC 側でも把握していて連絡を取り合っているのか。

JC Secretary : 国際会議で支部に関わるものに関して、ブース設置する旨を伝えてもらえれば、配布物を送る。

名古屋支部 Chair : Meeting Conference Event から、支部長宛に国際会議に関する連絡が届く。名古屋支部では、協力可能であれば知らせて欲しいと連絡をし、併せて少額支援実施の可能性も連絡している。その際、IEEE 宣伝ブースを設置する制度もある旨を連絡しても良いか。

JC Secretary : 連絡して欲しい。業務上、人を送るのは厳しいので 6 件に絞った。配布物を JC もしくは Japan Office から送付することは可能。

名古屋支部 Chair : 何が送られて来るのか。それに対して主催者側は何をすべきなのか。簡

単な説明書きがあれば良い。現状、Call for Paper はディストリビューションが良い等の旨しか記載していない。

JC Secretary : 積極的に検討する。ルールや手続きが 1 枚に纏まれば、それを添付するだけで提供内容がわかる。

名古屋支部 Chair : ルールが明確で無ければ、無限の責任および無限の業務が発生する。ルール等が纏まっているものを作ると便利だと思う。

11-3 SNS の運用開始について

資料 (11-3)

報告 : JC Secretary

前回の理事会以降、ソーシャルメディアガイドラインとソーシャルメディア運用ポリシーを制定し、9 月下旬から配信を開始。SNS 運営中の情報処理学会へも相談し、制定したガイドライン等を JC ホームページ上に掲載した。制定と掲載にあたって Japan Office が懇意にしている弁護士事務所を紹介頂き、内容を確認頂いた。マンガプロット募集を皮切りに、Twitter と Instagram で随時配信を開始。Twitter は IEEE 関連組織や国内学会の 8 アカウントをフォローしている。現在、Twitter は 79 フォロワー、Instagram は 52 フォロワー。運用体制は、JC SAC Past Chair、JC Secretary 等を中心に、学生 2 名をアサインした体制を検討中。Twitter は有料アカウントへの変更可能性も含め、来年 3 月に承認伺いする。JC と東京支部関係のものを配信したが、各支部の依頼も受けた。画像やチラシ等にして送って頂くと、承認のうえ配信をする。配信数は 1 週間から 10 日間の間で 1 配信、80 日で合計 9 配信。配信の滞り避けるため、ぜひ活用して欲しい。

質疑応答

R10 WIE Chair : SNS 運営に関わる方が忙しく、学生が入るのは賛成する。学生アルバイト対応のガイドラインはあるのか。IEEE 活動は Volunteer ベースが多い。アルバイト代支払いの際、何円までなら良い等といったガイドラインはあるのか。

JC Secretary : 指摘の通り学生以外のメンバーは忙しく、定期的な配信が難しい。アルバイト代については税金の問題を考える必要があり、3 月の理事会にて正式に報告する。多くの方や若い世代に参加して頂くため、ぜひ支部でも活用して欲しい。

EA Coordinator : 謝礼やアルバイト代の規定は bylaws に記載されているはず。理事に展開し、各支部や Affinity Group に展開してはどうか。

11-4 周年記念イベントについて

資料 (11-4)

報告 : LRSC 委員

8/31 に周年記念イベントの情報共有タスクフォースを開催した。各支部で開催予定の記念行事の情報を共有して、各活動に活かすべく始めたもの。第 1 回では趣旨

説明と過去の記念行事と今後の予定を話し合った。各支部の意向は、ほぼ単独開催を予定している。福岡支部は開催年が未決定。次の開催は1月を予定しているが、新体制が決まる時期に開催したいため、2月の方が良いかもしれない。

11-5 事務局労務関係業務のシステム化について

資料 (11-5)

報告：幹事会社担当

IEEE 事務局の労務関係業務(勤怠管理と給与承認)のシステム化について、7/15 第2回 JC 理事会にて承認された。このたび、システム化が完了し 11/21 から運用を開始した。実施内容は Kintone にアプリケーション 2 本(勤怠入力アプリ、給与承認アプリ)を作成。納入日は 11/30、支払期日は 12 月末日を予定。

質疑応答

JC Secretary：効率的に勤怠記録ができています。給与承認でもパスワード付きのメールでセンシティブな情報を送らずに済んでいる。次期にも引き継ぐ。

11-6 Japan Office 報告

資料 (11-6)

報告：Japan Office

日本における 2023 年 IEEE の Strategy および Japan Office の活動プランをまとめた。日本の IEEE のゴールの 1 つは、IEEE の認知度を向上し、コミュニティの活動支援を行うこと。国内会員、Industry、政府機関、アカデミア、研究機関との関係を確立し、IEEE の様々なプロダクトやサービスを日本のマーケットと環境に馴染むようサービスを提供する。Industry に関して、Membership Application を確認すると企業ラボラトリーの方から Membership について問合せがあった。他の企業からも、Membership Application に関する問合せがある。Membership を受けるだけでなく、能動的に働き掛けしたい。海外で展開する日本の中小企業は、活発に進出し、独自の技術を持っている企業が多いため、声掛けを行いたい。マイルストーンは、国内 Industry で認知度が高くアプリシエイトされているのは共通認識である。MD についてもマイルストーンを引き合いに出してプロモーションしたい。IEEE の Society が活動を再開したため、Japan Office の活用を依頼している。来年 3 月の情報処理学会全国大会では Computer Society President の招待講演が決定している。様々なところから NSA や MOU の問合せが来ており、JC と連携しながらフォローしたい。SBLTW の報告を見ると、Japan Office が手伝えるものがある。例えば、IEEE のブランドポリシーに関する説明をする等、関わる機会を設けたい。IEEE Conference では 3 件程ロジスティクスの手伝いを Japan Office が行った。助成金の申請、会場手配や支払い代行などの場合に応じた活動を広げていきたい。Volunteer の皆様との関係改善と強化に努め、相互の信頼関係を醸成したい。今年、IEEE President が「IEEE is Your Professional

Home」というスローガンを出した。この言葉通りに、皆様の協力を頂きながら来年も活動したい。

質疑応答

JC Chair : IEEE President が来日し、JC も Japan Office も IEEE という 1 つの組織の下にあるため、一緒に頑張りたいと言われ、今回の報告を依頼した。次期 JC Chair には継続的に議論をする場を設けて欲しい。私(JC Chair)は来年 R10 Director Elect になり、BoD とのリエゾンになる。議論のリードができれば、過去の Chair が抱えてきた問題が解消できそうだ。引き続き議論したい。

MGAARC Past Chair : 2007 年から JC 活動等に関わっている。この経験から言えば、Japan Office と JC は上手く連携できていないが、何が上手くいっていないのかを明確に答えることが出来ない。しかし、報告を聞くと問題ないと感じた。まずは JC 内で協調が出来ていない事実関係を確認および整理するのが良い。

次期 JC Vice Chair : IoT Initiative Society 主催の国際会議を開催し、ファイナンス Co-Chair を担当した際、Japan Office に力になって頂いた。JC は任意団体のため、海外送金をする銀行口座開設が大変だったが、それをクリアし、会場の予約、立替金の支払い、IEEE 本部への送金等を対応頂いた。JC は MGA 系で、COC だけが Chapter および Society と繋がっている。会計処理を個人が行うのは大変だが、Japan Office に支援頂いた。Volunteer の我々が国際会議を運営するのは大変だが、Japan Office にサポートして頂くと良い。

JC Chair : 何を願って欲しいか、何を期待してはいけないのか。その線引きを我々が考えることが重要。

R10 Past Director : JC Chair 提案のグループを作り、Japan Office との関係改善ができれば良い。期待している。

11-7 次期理事会への引継事項 (案)

資料 (11-7)

報告 : JC Secretary

次期理事会引継ぎ事項を纏めた。

質疑応答

Past Secretary : 資料は 4 役間の要点を書いたもので、各 Committee は個人の間で行うと理解している。資料を示した意図は、各 Committee にも Officer が行う内容を理解して欲しい、特に会計は、新しい Committee に上手く行って欲しい意図と推測した。

Treasurer 同士の引継ぎは行われるが、その仕組みを具体化して展開した方が良い。

JC Secretary : 意図は特にない。会計の部分は、報告書の書き方などを Treasurer が様々な場所で指導している。これが守られるようになれば、イベント終了次第精算依頼が来

と思う。大きな支出は確実に支払われるよう、工夫した引継ぎをお願いしたい。

[参考]メール審議記録

報告： JC Secretary

前回理事会以降、10件の審議をし、承認を頂いた。

[参考] Region 10 からのメール連絡一覧

報告： JC Secretary

R10からのメールは年間190件届いており、関係するChairおよびCoordinatorに適宜転送した。

以上